



www.yokohama-tawawa.jp

164号

特定非営利活動法人

「地域で生きる障害者を支える会」

住所：横浜市長北区下田町6-31-8

活動ホーム「しもだ」内

TEL 045-562-3600

FAX 045-562-5991

秋の啓発活動始まる！

障害者の生活と

その役割を支えて



何度も台風の来襲を受け、ようやく訪れた秋ですが、私たちもこの機に夏の間のダメージを癒し、何とか機首を上げ、軌道にのせたいところです。

そういえば、今年の秋から立て続けに難題を抱えることになり、毎週笑い声が絶えなかった活動日が、だんだん深刻な空気になっていきましたが、これも頑張っ一つずつ片付けていきたいものです。

* * *

沢山の課題には、私たちだけでは解決できないことをありますが、当面出来ることと、しなければならないことについて、一つ一つ明確にし、出来ることから取り組んでいきたいと思います。

* 支える会の主な活動 *

9月1日グループホームを考える会

* 写真展準備活動 →

10日 啓発事業・写真展開催

——「支える会」とアートかれん
手作り市の合同展——

14日写真展開展・ 撤収

18日 GH 家族会

26日活動ホーム事業委員会

28日地域を耕す会参加

10月1日港北区社協理事会

◆人材の募集について

よつばホーム第2よつばホーム共に、それぞれの入居者は、障害の重い方ですので、段階的に泊まる日を増やしてきましたが、入居者もすっかり慣れてきました。

一方で、家族の高齢化により、家庭での介護が難しくなり、同時に当事者も加齢と共に、より手厚い介護が必要になってきました。ベテランのヘルパーさんによるサポートもありますが、今後に向けて、職員の増員がいそがれます。

ハローワーク等公的な機関の他、インターネットや知り合いを通じても呼びかけてはおりますが、ぜひ皆様のお知り合いにもご紹介くださるようお願い致します。障害者支援員として、共にこの活動を担っていただける熱意ある人材をもとめております。ご連絡をお待ちしております

◆健康へのサポート

私たちが支援する、障害者の皆さんは、毎日拘縮予防のプログラムを行ったり、職員やサポートしていただく方たちの努力もあって、長い方は、学齢を過ぎて40年近くにもなりますが、恩師たちには健康の維にもまた体の状態も比較的良好に保たれてきたと言っている方がいます。

しかし、加齢に伴い体調の変化は、免れず、通院も増え、専門的なアドバイスが必要となっています。これからぜひ専門的な先生の研修も企画していきたいと思っています。

◆重い障害があっても地域の中で

障害者の生活は、とかく用意された範囲の中で過ごすこととなりますが、本当に「社会の中でその一員としての暮らしを」と考えるとき、社会がもつと理解して変わっていかねばならないと同時に、理解される側でも働きかける努力がまだまだ必要です。

重い障害者は、その使命を果たすためにも多くの支援が必要で、私たち NPO 法人「地域で生きる障害者を支える会」の活動の意義もそこにあります。これからも、地域の皆さんとの自然な交流を大切に、無理のない範囲で、真のバリアフリーへ向けての啓発活動を行って行かねばならないと思っています。

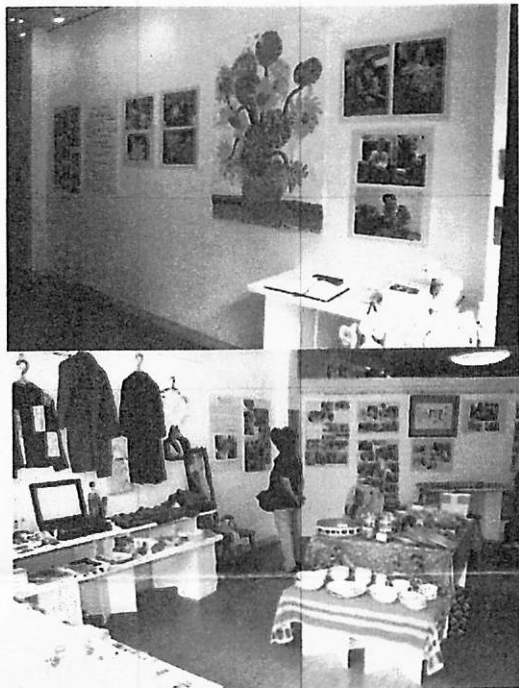
＊新しい試み＊ アートかれんギャラリーでの

「支える会」とアートかれん手作り市の合同展

第13回 写真・パネル展終わる

ことは、当[支える会]とアートかれんの手づくり市の緩やかな応援がコラボした展覧会としてひらかれました。

手作り品に興味があつてはられる方、写真展に来られた方が手作り品を購入されたりと少し賑やかな会となりました。これまでとは会期が1日短かったのですが、いろいろな方にご来展頂けてよかったとおもっております。ありがとうございました。





めがねの声

◆難病で大変。でもその人らしく....

この前の集まりで、バリバラのビデオをみました。難病の人の日常生活の紹介でした。

私は、この女性の難病をはじめて知りました。電動車いすの人で、ときどきテレビで見ますが、いつも元気で活動していて、お話もげんきにしているひとです。

ところが家に帰って、夕暮れになって疲れが出ると、急に重い症状が出始めて、どんどん重い障害になります。

日中は、酸素の器具を付けていても普通のように元気に活動をしているのに、だんだん疲れると身体も動かなくなり、しまいには目で話す機械も使えなくなって、まぶたも動かなくなると、介助の人がまぶたを抑えて、眼球の動きでイエス、ノーで、意思をくみとっていきます。

でも、話がだんだん伝わらなくなることがあります

始めのところで間違うと、ボタンのかけ違いでどんどん違う方に行って話がわからなくなってしまいます。とうとう疲れて、泣き出してしまいました。

* * *

私も、話が出来ないので、おなじ気持ちになる時が多くあります。

友だちのお母さんや、知り合いの人は「支えれば少し歩けるし、文字盤で話せたり出来るのでいいね」言ってくれます。私は『うん、うん』と言っていますが、本当は、心の中を開いて見られれば、みんなびっくりするかな、とてもたいへんです。

ときどき書くことですが....、いつも使う簡単な言葉だったら、よいのですが、バタバタとしているときや、使いたくない言葉だったりすると、使いたい言葉が表せなくて、文字盤も解らなくなって、真っ白になってしまうのです。

* * *

ときどき、重い障害の人は、施設や、グループホームの方がいいといわれますが、その人は、自由にできないので、ヘルパーやボランティアをたのんで生活し、夜でも2人体制で介助してもらいながら、自分らしく生活をし、頑張って一人暮らしをつづけているそうです。

「光熱費がかかるでしょう」と聞かれて「電気代がかかるのよ。呼吸器から、リフトなど機器が沢山だから....」とっていました。

* * *

ビデオを見た後で、話し合いの時『僕は、体調の関係で、すごく水分を多くとる必要があるんで飲み物代がけっこうかかります。』といていた人もいました。

私は、家に帰って母と『私は、(水分は何でもストローだから)、ストローと会話のための時間が(お金じゃないけど)すごくかかりますね』と大笑いしました。

障害者は一人一人違うけれど、時間や人手や、お金だけではなくて、いろいろな事が普通ではわからないものが、たくさんかかるのだなとおもいました。

大原友子

今月のよつばホーム&第2よつばホーム

秋も深まり、朝夕はめっぴり冷え込むようになってまいりました。

実りの秋を迎え、ますます食がすすむ今日この頃です。

食欲の秋、芸術の秋、スポーツの秋です。色々な施設ではイベントや運動会など目白押しですね。

先日町内運動会が開催されました。よつばホームの入居者も参加を楽しみにしていましたが、体調が今ひとつだったり、風邪をひいて薬を飲んでいたりということもあり、グループホームで過ごしました。

ほのぼの祭

9月22日(土)は横浜療育医療センターのお祭り『ほのぼの祭』でした。

よつばホームからは次郎さんが遊びに行ってきました♪

到着早々、香ばしいニオイに誘われて『焼きそば』の屋台に向かいます。どんな時もブレずに焼きそば♪

藤田博之さんのお母さんと一緒にランチしました。

美味しい焼きそばでお腹を満たし、いよいよ楽しみにしていた『ほのぼの祭』です！

会場内をあちこち散策していると、お世話になった人と偶然再会したり、旧友に会ったりとびっくりです。その後もおやつ片手にピエロのパフォーマンスを楽しみました。そして一番のお楽しみは藤田博之さんとの再会です！

博之さんは大好きなコンサートを満喫してとても良い表情でした。

た。何より元気そうで良かったです。近々の再会を約束しました♪

定期通院

よつばホームは重度障害を持った入居者が地域の中で生活しています。てんかんを持った入居者も多く、日々の服薬も欠かせないものとなっています。

体質の変化や加齢による変化などにより、薬の効果が変わってくることもあります。

定期通院の際、採血による血中濃度の検査で薬の効き具合を確認し、服薬量を微調整しています。

入居者にとって欠かせないものとなっています。

大きな発作もなく、今後も平穏な生活を送れることを願っています。

